

実施当初に勤務可能である年令の制限をしてないために、現在でも若いナースにとって、マザー的年令者が約半数もあり、また場所によって、指導的立場にある新制度の主任看護婦と相当年令差があり、これは将来ますます隔りを生じた場合に問題を生ずるものと考えられる。その上三交代制の勤務に比して、高年令に達しても勤務可能であるため、退職年令について、今後どこに一線を画するかは早期に解決すべき点である。

2) 看護力に対する採用条件

看護力の状態により、最大限何%のパートタイマーを採用すべきか、その数に対して、適切な限度を定める必要がある。

3) 再教育について

家庭生活によるブランクをもって採用される者が大半であるため、日進月歩の医療と相まって、新しい看護技術に相当の距離を生じている者に対し、計画的に再教育を考慮する必要がある。

以上は現在気付いている問題の一部に過ぎないが、今後集団会などを通じて、本人たちからも体験を通しての問題点を発見し、そのつど処置に当たっていくべきものと考えている。

おわりに

当院における実施経過より、このパートタイム制は看護職を永続させる点において、最も適当な方法であろうと思われ、このようないくつかの道を開き、将来専門職業としての道を巾広くして、できる限り魅力あるものに成長させていかねば、この道の志望者はこの上にも減少し、ますます看護婦不足の苦悩を増大するは必須と思われる。

なお、このパートタイム制実施当初は、他に例を見なかったようだが、最近の調査によれば、これに踏み切っておられる病院は、日赤関係で5病院、その他都内に2カ所もあると知り、道づれが増えたような気がして嬉しい。これらの実施病院には、それぞれ有意義な体験とご意見をお持ちと思われるが、以上当院における実施経過を報告し、皆様の病院で、今後の看護要員需給対策の一助になれば幸いであり、またこれを機会に当院の今後における人事管理面の苦悩を解決するため、ぜひ皆様のご批判とご教示をいただきたいと切に願っている。

(日赤中央病院看護部)

編集デスク <14>

昔の一高に森巻吉という名物校長がいた。全身気魄といったような快人物であった。私が一高に入った時には森校長は病気で学校には出ていなかった。森ケン(当時、愛称として、そう呼ばれていた)はけっきょくその夏に校長を辞し、橋田邦彦校長にかわった。したがって、私は、直接森ケンから教えるを受ける機会はなかったわけである。ただ森ケンには一度会った。それは、校長をやめてから、寄宿寮の晩餐会に招待することになって、出席の依頼に鎌倉の私宅を訪ねたからである。森ケンは、けっきょく晩餐会には出なかった。病気が悪かったからである。まもなく不届の客となった。

森ケン(誰も森校長とも森巻吉先生とも言わなかった)のことばに「やりゃー、やれる」というのがある。当時の一高生は、常に「やりゃー、やれる」という、この森ケンのことばをモットーにしていた。ナポレオ

ンのように、一心こめてやれば不能のことはないというわけである。「やりゃー、やれる」——ことばは短い、その中には男子の意気がこめられていた。われの行なわんとす

(やりゃーやれる)

——長谷川 泉——

るところに不能のことなしという気魄なのである。当時の一高魂の底には、この「やりゃー、やれる」ということが力強く流れていた。

私は直接森ケンに学ばなかったが3年間の寮生活を通して、森ケンの置いていったことば、「やりゃー、やれる」に表明されている男子の意気というものので教育されたことを思ひ出す。今どきのことばで言えば、モチベーションを高めモチベーションによってことを行なうことの大切なことを教えられたのである。

森ケンの次の校長、橋田邦彦博士は戦犯に指定されて自殺したが、森ケンのようなあだ名はついになかっ

た。誰もあだ名をつけなかった。人からの相違である。橋田校長は、森ケンの残した「やりゃー、やれる」を批判した。「やりゃー、やれる」といってやらないのはよくないというわけである。「やりゃー、やれる」と言って幻覚に酔ったように大言壮語して実践力がないのでは、結局何もできないという点をついたのである。「やりゃー、やれる」のではなく、やらねばならぬのである。

橋田校長からは、修身を習った。当時、旧制高校には修身なる学課があって、それは校長の担当であった。橋田校長は道元に精しかったから、禅に基づく哲学的思索が修身の講義に展開された。大学クラスの哲学・倫理の高次元の講義が、修身の名のもとに講じられた。

「やりゃー、やれる」ということと、「やらねばだめだ」ということ、この二つのことを私は一高で学んだ。どちらも、現在の私の生活態度の中に生きている。森ケンも橋田校長も今は共に亡いが、その風貌と、ことばは依然として生きている。